

(深谷) 寺の跡もあり、中近世において栄えた場所であったと言える。

群馬・中江田本郷遺跡

なかえだほんごう

- 1 所在地 群馬県新田郡新田町大字中江田
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)一〇月～一九八八年三月
- 3 発掘機関 新田町教育委員会
- 4 調査担当者 小宮俊久
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 八～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

中江田本郷遺跡は、新田町役場の南二・八kmに位置する。北〇・一kmには旧日光例幣使街道であった県道太田・境線が通り、北東一

kmには近世宿場町として栄えた木崎の町並みがある。

また、南〇・七kmには、鎌

倉時代後期に建立され、明

治時代に焼失するまで存続

していたと伝えられる来迎

寺の跡もあり、中近世にお

いて栄えた場所であったと

言える。

遺跡は、大間々扇状地南方に形成された木崎台地上に位置し、標高は四〇m前後を測る。調査は国道三五号線バイパス道路建設にともなう発掘調査で、新田町教育委員会が群馬県より委託を受け、約六〇〇㎡について実施したものである。

調査の結果、八世紀から一〇世紀にかけての住居跡・掘立柱建物跡・中世の居館の濠跡・中近世の土壇墓・井戸跡等、多数の遺構が検出された。木簡が出土したのは、調査区ほぼ中央の最高所に位置する井戸跡からである。井戸は、直径約一m、深さ約四mの円筒形の素掘りで、木簡は深さ約二・八mから出土している。遺物は総じて少なく、他の遺物としては、木簡よりやや上のレベルからすり鉢の小破片一点、栗の実一点が出土した程度である。

8 木簡の積文・内容

(1) 「梵字 仏力魔界界即仏一念即於法

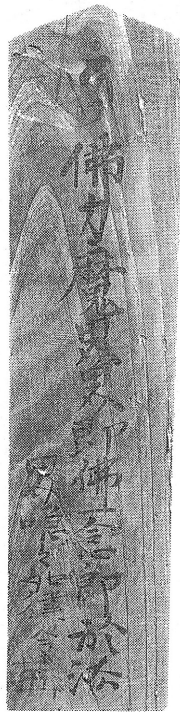
界唵々如律令辨」

282×72×4 051

呪句「唵々如律令」の記載により、呪符に相当すると思われる。

まだ整理作業は行っていないが、井戸中より出土したすり鉢小破片は、堺すり鉢二類に相当し、一九世紀前半に比定されるため、現時点では、木簡の年代もこれに近い時期と考えたい。

(小宮俊久)



佛力魔界即佛念即於法
思急之律令辨